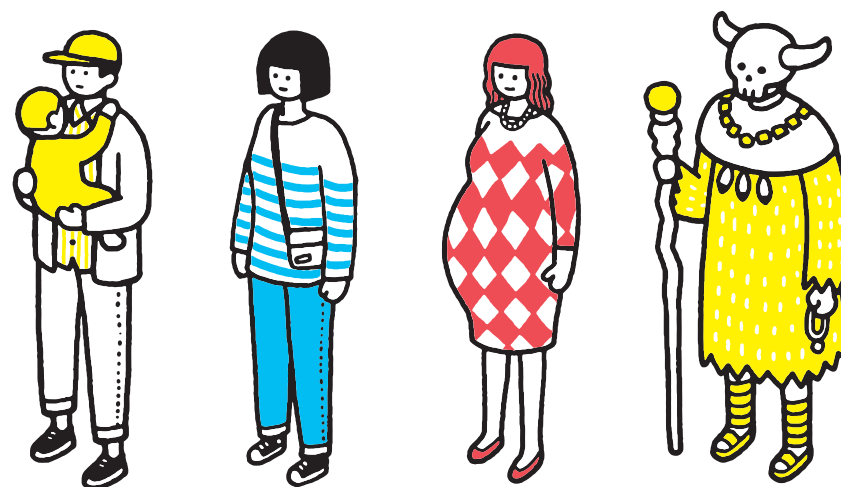




【お問い合わせ先】
広島県健康福祉局子育て・少子化対策課 子育て支援グループ
TEL : 082-513-3175

ライフイベントに
まつわるあれこれ

トリビア BOOK



結婚・妊娠・出産 トリビア

世界中には、古くから結婚・妊娠・出産にまつわる様々な風習やしきたりがあります。現代に暮らす私たちからすると、ちょっとびっくりするようなものから、今でも行われているものまでたくさん！ここでは、結婚・妊娠・出産にまつわる世界のトリビアをご紹介します。

🌸 花言葉

愛の告白の定番、バラの花束。本数で意味が変わるんです!

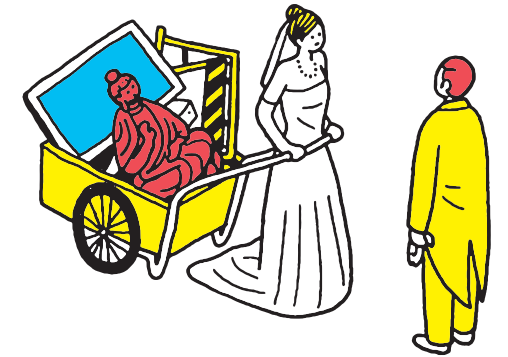
プロポーズの定番バラの花束。実は本数によって意味が変わるんです。有名なのは108本の「結婚してください」ですが、99本なら「永遠の愛」、40本が「真実の愛を誓います」、3本は「愛しています」を意味します。諸説ありますが、花言葉は17世紀トルコの花に想いを託して恋人に贈る「セラム」という風習から生まれたと言われてます。恋人に伝えたい想いによって花や本数を変えると素敵ですね。



📖 マザーグース

花嫁の幸せを祈るおまじない

『なにかひとつ古いもの、なにかひとつ新しいもの、なにかひとつ借りたもの、なにかひとつ青いもの、そして靴の中には6ペンス銀貨を』そんな「マザーグース」の歌が由来となっているサムシングフォー。「古いもの」は「受け継がれる家族の絆」、「新しいもの」は「新生活への希望」、「借りたもの」は「幸せな結婚生活」、「青いもの」は「家族への真摯な愛情」、「6ペンス銀貨」は「経済上の安定」を意味し、英米を中心に200年以上前から結婚式に取り入れられています。



🇫🇮 フィンランド

出産はサウナの中で!?

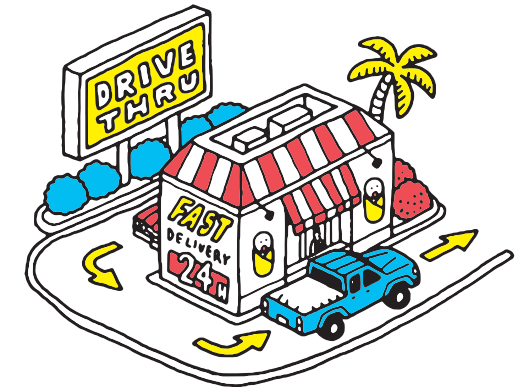
サウナ発祥の地と言われ、家庭用サウナが普及しているフィンランド。なんと、約100年前まではサウナの中で出産が行われていました。暖房もなく、今のように衛生的な生活でもなかった当時は、サウナの中が暖かく衛生的で、出産場所として最適だと考えられていたそうです。



🇺🇸 アメリカ

出産の主流は「ドライブスルー」

アメリカでは「サッと入って、サッと退院する」、まるでドライブスルーのような出産が主流です。その理由は、適用される保険制度。日本だと出産後5~7日間入院するのが一般的ですが、アメリカは保険適用の関係から、自然分娩は48時間までに、帝王切開で96時間までに退院するのが一般的です。



🇲🇾 マレーシア(東部)

難産のときはシャーマンを呼んで出産

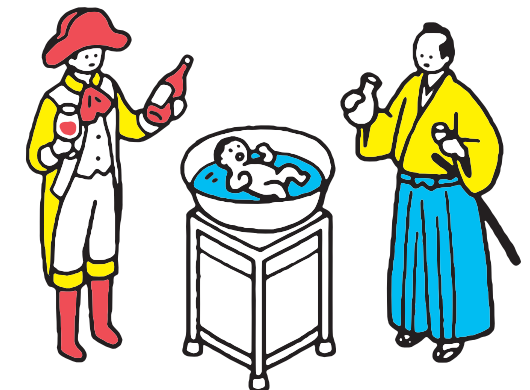
マレーシアでは出産は霊的な攻撃を受けやすいと考えられていて、産婆さんはお産を手伝うだけでなく、悪霊から母子を守るための儀式を行っています。さらに難産の場合は、産婆さんと一緒にシャーマンが呼ばれ、産後に悪い霊が侵入するのを避けるため、母親の周りにナイフや先の尖った金属、かさの柄が呪物として置かれます。



🇫🇷 🇯🇵 フランス・日本

国によっていろんな風味が!? 世界の産湯事情

生まれてきた赤ちゃんを洗う産湯。18世紀前半のフランスの産湯には無塩バターか卵黄が入っており、ときにはワインやブランデーも加えていました。また、日本の江戸時代の産湯には酒、塩、米のとぎ汁などを入れていました。これらには、生命力を身につけさせ、丈夫に育てほしいという願いが込められています。





悩むよりも、まずはチャレンジ
 してみる事が大切だと思う。

PROFILE

タウン情報Wink福山・備後 編集長
 宇都宮 久美子さん(42歳)

ご主人と3歳の息子さんとの3人暮らし。大学卒業後、地元・福山でUターン就職するが、小さい頃からの憧れていた雑誌編集への夢を追って(株)アスコンへ転職し、Wink編集部へ配属。その後、販促支援の部署を経て、現職。Wink編集部で初ママ編集長。

身近な人の
 理解と支えが
 あってこそその両立

20代は仕事ごとにかく楽しくて。30歳を過ぎて仕事以外のライフイベントにも目を向ける余裕ができて、その後、主人と付き合い合せて1年で結婚、出産しました。主人はもちろん、義両親も私が働くことに対して協力的なので、とても助かっています。編集長就任の打診があったときも、主人は「やりなよ」と迷わず背中を押してくれました。身近な人の理解と協力があるからこそ、今も大好きな仕事が続けられています。

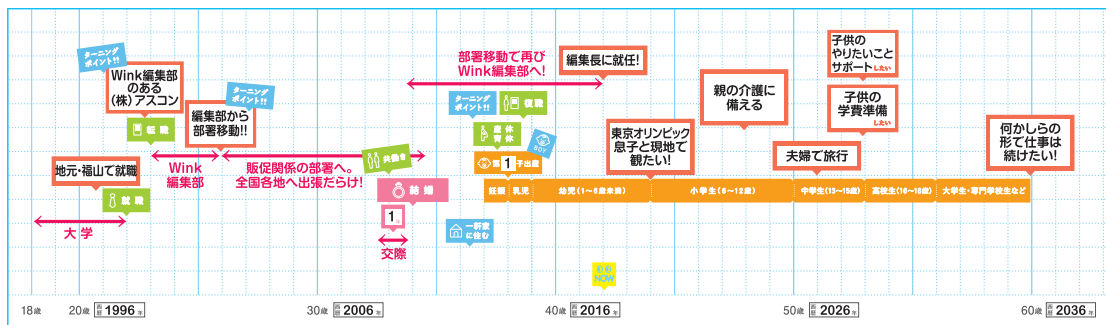
「全部できる」ではなく
 「得意なことをやる」
 スタイルで

私は部署移動でWink編集部を離れていた時期があるので、編集一筋のメンバーの編集スキルには勝てないし、時短勤務中なので遠方や夕方以降の取材は難しかったです。その代わりに、他部署で培った関係機関との交渉力や、特集の企画力を生かして仕事をする事は出来ます。「全部できる」ことに重きを置くのではなく、自分やメンバーの「得意を生かす」スタイルだからこそ続けられているのかなと思います。

やってみて
 ダメだったら、
 そのとき考える

出産後に復職するときも、ママで編集長になるときも、不安がゼロだったとは言いません。でも、未来の不安要素については、悩み出すとマイナスな考えしか出てこなくなってしまいます。ライフイベントの選択も、悩むより先に「やってみてダメだったらその時考える」くらいの気持ちで、まずチャレンジしてみる事が大切かなと思います。

わたしの未来の設計図



自分がどんな人生を送りたいか、
 考えるきっかけに。

PROFILE

広島県健康福祉局経営企画担当 主任
 町 一希さん(38歳)

奥様と3人の娘さんの5人暮らし。大学院卒業後、広島県庁へ入職。配属先で出会った奥様と結婚後、3人の娘さんを授かる。3人目の出産後、育児休暇を取得。

不安はあったけど、
 意外と何とかなる。

妻とは職場の配属先で出会いました。2年お付き合いをして「これから先、この人となら人生一緒に歩いていける」と気持ちが固まったタイミングで結婚しました。結婚して家庭を持つというライフイベントを選ぶ際、金銭面や子育て環境などの不安要素はもちろんありました。でも、全部ひとりで背負わなくても、相手への気持ちがしっかり固まっていれば意外と何とかなるものなんだな、というのが結婚してみた実感です。

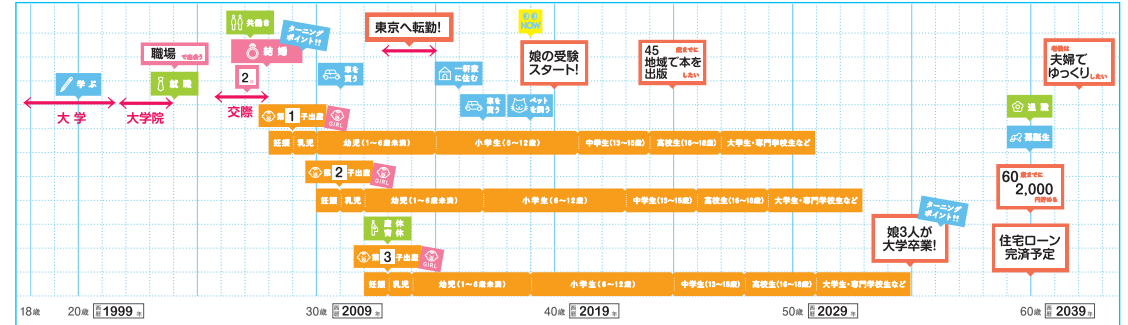
役割はきっちり決めず、
 協力しながら柔軟に。

現在は妻も復職して共働きなのですが、子どものいる生活になって、タイムマネジメントが格段に上手くなりました。子どもがいると予期せぬ事態が起こることが多いのですが、妻と協力して、時には両親をはじめとした周囲の助けも借りつつ何とか乗り越えています。例えば、子どもが病気になったときには、自分が午前休、妻が午後休を取って交代で看病したり。役割はきっちり決めず、お互いの状況によって柔軟に対応しています。

ライフイベント選択は
 「ゴール」じゃなくて
 「スタート」

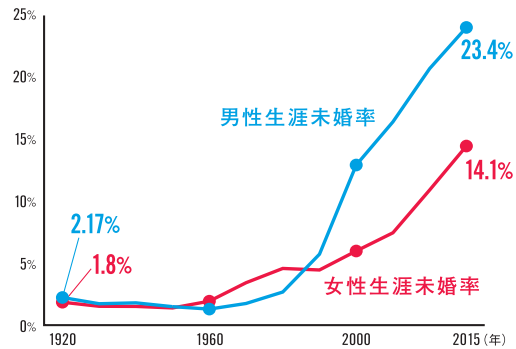
就職、結婚、出産などのライフイベントは、あくまで人生の選択肢のひとつで「選択する・しない」も「どのタイミングで選択するか」も、本人の意思で自由に選べます。ただ、ライフイベント選択はあくまでスタートラインなので、ライフデザインする際は「スタートラインだけでなく、スタートした後に自分がどんな人生を送りたいか」も視野に入れて考えることが大切かなと思います。

わたしの未来の設計図



生涯未婚率の推移

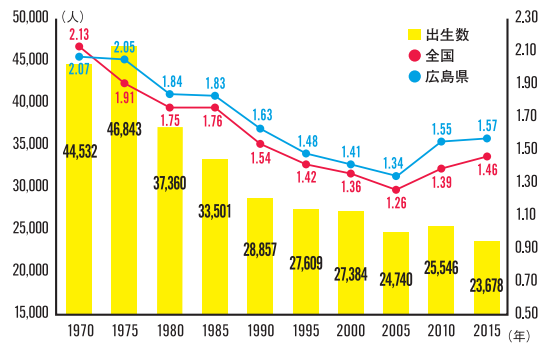
生涯未婚率(50歳時に未婚の割合)は年々増加傾向にあり、一生結婚しないで独身のまま過ごす人が男女ともに増えています。



出典:総務省統計局「平成27年国勢調査結果」より算出
http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp

広島県と全国の出生率の推移

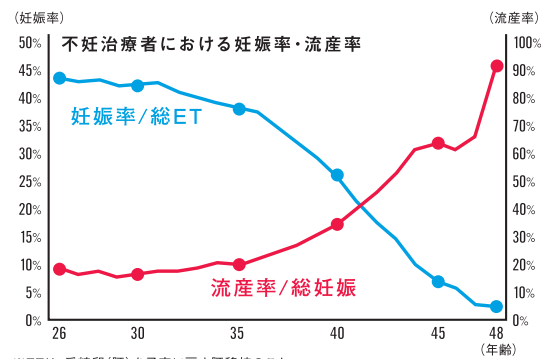
合計特殊出生率(15~49歳の女性が産む子どもの平均人数)は2005年以降回復傾向ですが、生まれてくる子どもの数は減少傾向です。



出典:厚生労働省「人口動態統計」http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html

女性の年齢による妊娠率と流産率の変化

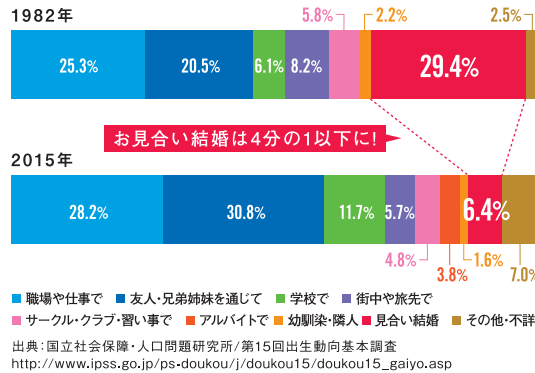
一般的に女性の年齢が高くなるほど妊娠しにくくなり、特に35歳以降から妊娠率が大きく低下します。



※ETは、受精卵(胚)を子宮に戻す胚移植のこと
出典:日本産婦人科学会 ARTデータ集2015 https://plaza.umin.ac.jp/~jsog-art/data.htm

結婚相手と出会ったきっかけ

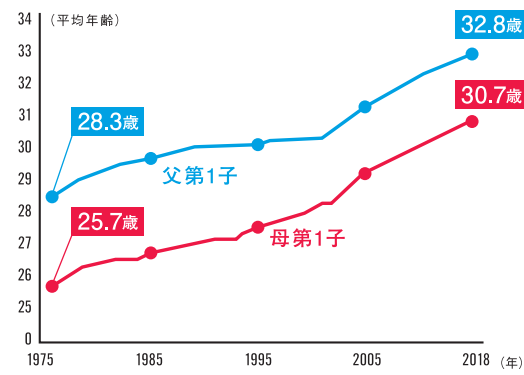
約30年前と比べて「お見合い結婚」の比率が大きく下がっており、結婚相手と出会うためには「出会いを求めて自ら行動する」必要性が増えています。



出典:国立社会保障・人口問題研究所/第15回出生行動向基本調査
http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp

初めて子どもが生まれた時の父母の平均年齢

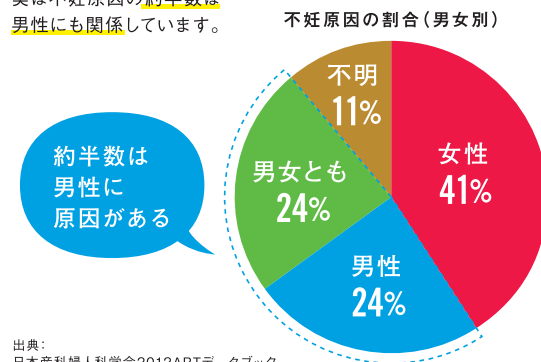
初めて子どもが生まれた時の年齢は年々上昇しており、男女ともに「高齢出産化」が進んでいます。



出典:厚生労働省「人口動態統計」http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html

男女別・不妊原因の割合

不妊原因は女性側だけの問題と思われがちですが、実は不妊原因の約半数は男性にも関係しています。



出典:日本産科婦人科学会2012ARTデータブック
https://plaza.umin.ac.jp/~jsog-art/data.htm

広島県は、若者を対象に、仕事や恋愛・結婚、妊娠・出産、子育てなどのライフイベントをトータルで考え、希望するライフデザインを実現するための選択や自発的な行動を促すきっかけとなるセミナーを開始しました。

先行で実施した広島工業大学 JCD センターでのライフデザインセミナーの様子をご紹介します!



広島県オリジナルのライフデザインワークブックとステッカーを使って、ライフデザインしました。



参加者全員でセミナーを通しての気づきや今後取り組みたいことを共有しました。



お招きした講師のお二人!
 (写真左)
 アドバンススタイル株式会社
 代表取締役
 田岡 美江氏
 (写真右)
 特定非営利活動法人キッズNPO
 吉本 卓生氏

実施当日、広島県庁ヘインターンシップに来ていた広島修道大学1年生の柳下さんと正円さん。運営のお手伝いをしてもらいながらセミナーに参加してもらい、感想をお聞きしました!



◆ 正円さん
 時間には限りがあると感じました。それと同時にこれから待っている将来に希望や夢をたくさん持って、今この瞬間を全力で楽しみたいと思いました。



◆ 柳下さん
 今回、ライフデザインをしてみて、自分の将来について深く考えることで、これからどうしたらよいか視覚化でき、これからの人生に活気が出てきました。

★ お二人が考えたライフデザインシートは特設 Web サイトで公開中 ★

ライフデザイン ひろしま 検索 https://lifedesign-hiroshima.jp

